

## 学 会 記 事

### I. 運営委員会報告（議事のみ）

2000年10月6日に高知県高知市の高知会館において開催。

- ①編集委員会による植生学会誌執筆要領改訂（案）について了承した。
- ②2000年度総会の議事について審議した。

### II. 編集委員会報告

2000年10月6日に高知県高知市の高知会館において開催。

- ①植生学会誌執筆要領の改訂（案）を作成した。
- ②校閲に長期間かかっている（著者からの修正原稿が滞っている）論文原稿の処理について審議した。

### III. 企画委員会報告

2000年10月6日に高知県高知市の高知会館において企画委員会を開催し、シンポジウムの開催などについて審議した。

### IV. 2000年度総会報告

2000年10月7日に高知大学朝倉キャンパスにおいて2000年度総会が開催され、以下の事項が報告または承認された。

#### A. 報告事項

##### 1. 事務局（庶務関係）

- ①2000年10月2日現在の会員数は490名である。
- ②植生学会が学術会議の学術登録団体に登録された（1999年9月14日）。植生学会が推薦した伊藤秀三氏は推薦すべき会員とはならなかった（2000年6月30日）。植生学会の所属する生態・環境生物学研究連絡委員会の委員として大沢雅彦氏を推薦した（2000年9月10日）。
- ③2000年8月5日現在本会に所属する会員の名簿を作成した。
- ④大学評価委員会専門委員の候補者として奥富清学会会長を推薦したが、専門委員とはならなかった（2000年9月26日）。

##### 2. 事務局（会計関係）

- ①本年度の予算執行状況について

#### 別掲1. 植生学会1999年度収支決算

（単位：円）

収入の部		予算	決算	差異	備 考
前期繰り越し		1,596,076	1,596,076	0	
会費		2,556,000	2,278,000	278,000	
雑収入	広告料など	300,000	386,000*	-86,000	*会誌超過ページ分収入を含む
	利息	1,000	225	775	
計		4,453,076	4,260,301	192,775	
支出の部					
本誌刊行費	850,000円×2回	1,700,000	867,300*	832,700	*1回分次年度に支払い繰り延べのため
情報誌刊行費	300,000円×1回	300,000	232,660*	67,340	*1998年度分
送料		200,000	145,640	54,360	
事業費	シンポジウム開催費など	100,000	100,000	0	
学会事務局経費		300,000	375,989	-75,989	
編集事務局経費		200,000	87,428	112,572	
大会補助費		100,000*	100,000	0	*第4回大会分
予備費		1,553,076	8,600*	1,544,476	*情報誌編集費
計		4,453,076	1,917,617	2,535,459	
収支差額（繰り越し）		0	2,342,684	-2,342,684	

#### 別掲2. 植生学会2000年度収支予算

（単位：円）

収入の部		2000年度	1999年度	差異	備 考
前期繰り越し		2,342,684	1,596,076	746,608	
会費		2,848,000	2,556,000	292,000	
利息		1,000	1,000	0	
雑収入	広告料など	300,000	300,000	0	
計		5,491,684	4,453,076	1,038,608	
支出の部					
本誌刊行費	850,000円×3回	2,550,000*	1,700,000	850,000	*16巻2号未払いのため
情報誌刊行費	300,000円×1回	300,000*	300,000	0	*1999年度分
送料		250,000	200,000	50,000	*16巻2号未払いのため
学会事務局経費		400,000	300,000	100,000	
編集事務局経費		150,000	200,000	-50,000	
情報誌編集費		10,000	0	10,000	
企画委員会経費		100,000	100,000	0	
小委員会経費	100,000円×2	200,000	0	200,000	
大会補助費		100,000*	100,000	0	*第5回大会分
予備費		1,431,684	1,553,076	-121,392	
計		5,491,684	4,453,076	1,038,608	

## 3. 事務局 (編集関係)

- ①1999年7月から2000年9月までの間に植生学会誌16巻2号(原著論文6編その他1編, 頁数72頁)と同17巻1号(原著論文5編, 頁数51頁)を発行した。
- ②1999年7月から2000年9月の期間の投稿論文数は25編。
- ③2000年3月に植生情報第4号(頁数60頁)を発行した。
- ④植生学会誌執筆要領の7の「原著論文は刷り上り10ページまで,」を「原著論文は刷り上り12ページまで,」とする。なお, この要領は2000年10月7日以降に投稿された原稿に適用する。
- ⑤編集事務局から著者宛に最後に送られた郵便物の発送日から6ヶ月以上経過しても著者から原稿などの返送がない場合には, 事務局に残っているすべての書類を著者宛に返却し, 再投稿を勧める。

## B. 承認事項

1. 1999年度収支決算 (別掲1)
  2. 2000年度収支予算 (別掲2)
  3. 会則の改正(常置の専門委員会の設置について) (別掲3)
  4. 本年度はシンポジウムを開催しない。
  5. 会長および運営委員の選挙制度の見直しに関する選挙制度検討小委員会(林一六委員長, 福嶋司委員, 津田智委員の3名)を設置する。
  6. 学会賞の創設に関する学会賞創設検討小委員会(奥田重俊委員長, 波田善夫委員, 星野義延委員の3名)を設置する。
  7. 植生学会第6回大会は2001年10月に岩手大学で開催する。
- C. その他
1. 第6回大会開催地となる岩手大学三浦修氏より, 多数の会員参加が要請された。

## V. 植生学会第5回大会報告

植生学会第5回大会が, 2000年10月6日から8日にかけて高知大学において開催された。(下記日程)。一般講演は40題の発表が行われた。参加者は予約申込者113名, 当日参加者33名の計146名であった。

10月6日: 企画委員会, 編集委員会, 運営委員会

10月7日: 一般講演, 総会, 懇親会

10月8日: エクスカーション (室戸岬)

一般講演の演題は以下の通りであった。

- A01 宮崎卓(国際協力事業団)・Abdulla al-Wataid(サウジアラビア野生生物保護委員会)。アラビア半島における熱帯雲霧林の植物社会学的研究 I
- A02 原正利(千葉中央博)・神崎護(京都大)・水野貴司・野口英之・K. Sri-ngernyuang(大阪市大)・大久保達弘(宇都宮大)・山倉拓夫(大阪市大)・P. Sahunalu・P. Dhanmanonda(カセサート大)・S. Bunyavejchewin(タイ森林局)。タイ北部ドイ・インタノンにおけるブナ科植物の分布
- A03 大野啓一(千葉中央博)・李振宇(中国科学院植物研究所)。中国福建省龍栖山の常緑広葉樹林
- A04 沖津 進(千葉大・園芸)。ロシア極東マガダン州におけるグイマツとハイマツの分布
- A05 持田幸良(横国大・教育人間)・宮本佳恵・(故)山中三男・石川慎吾(高知大・理)。北限域に生育し続けるスギ群落の構造と立地
- A06 林一六・大坪二郎(筑波大・菅平)。長野県根子岳におけるダケカンバとシラカンバの垂直分布
- A07 蛭間啓・福嶋司(東京農工大・農)。長野県東北部, 雑魚川流域のブナ林における平坦地, 斜面間での構造, 更新比較
- A08 持田誠・富士田裕子(北大・農・植物園)・秦寛(北大・農・牧場)。北海道日高地方における北海道和種馬林内放牧地の植生
- A09 中村康則(岡山理大・院・理)・波田善夫・能美洋介(岡山理大・総合情報)。岡山県玉野市地域の森林植生—5mメッシュによる植生解析—
- A10 須股博信(日本文理大メディカルカレッジ)。大分市洪積世台地に残る里山林の組成と林分構造並びに復元の試み
- A11 岸田章一・出口博則(広島大・院・理)。温度傾度に沿ったアカマツ二次林の遷移系列の変化

## 別掲3. 植生学会会則改正条項

旧	新
<p>第9条 本会に次の役員をおく。 ①会長1名, ②運営委員12名, ③幹事長1名, ④幹事3名(庶務, 会計, 編集), ⑤会計監事2名, ⑥編集委員長1名, ⑦編集委員若干名</p> <p>第10条 4) 幹事長, 幹事, 会計監事および編集委員長は会長が運営委員会に諮って委嘱する。</p> <p>6) 役員の内任期はいずれも3年とし, 再任を妨げない。</p> <p>第14条 「事務局」事務局は幹事長および幹事をもって構成し, 会長を補佐して会を運営する。事務局は幹事長または庶務幹事の所属する機関におく。</p> <p>第15条 「編集事務局」編集事務局は編集委員長, 編集幹事および編集委員をもって構成し, 会誌の編集, 刊行に関する会務を行う。</p> <p>第16条 本会の経費は会費とその他の収入をもってあてる。</p> <p>第17条 本会の会計年度は4月1日から翌年3月31日までとする。</p> <p>第18条 本会の活動趣旨に賛同した個人または団体からの寄付を, 会長は運営委員会の議を経て受けることができる。</p> <p>第19条 会則の変更は総会の決議による。</p>	<p>第9条 本会に次の役員をおく。 ①会長1名, ②運営委員12名, ③幹事長1名, ④幹事3名(庶務, 会計, 編集), ⑤会計監事2名, ⑥編集委員長1名, ⑦編集委員若干名, ⑧専門委員会委員長各1名, ⑨専門委員若干名</p> <p>第10条 4) 幹事長, 幹事, 会計監事, 編集委員長および専門委員会委員長は会長が運営委員会に諮って委嘱する。 6) 専門委員は専門委員会委員長が指名する。 7) 役員の内任期はいずれも3年とし, 再任を妨げない。</p> <p>第14条 専門委員会は委員長と専門委員により構成し, 当該専門事項に関する会務を行う。</p> <p>第15条 「事務局」事務局は幹事長および幹事をもって構成し, 会長を補佐して会を運営する。事務局は幹事長または庶務幹事の所属する機関におく。</p> <p>第16条 「編集事務局」編集事務局は編集委員長, 編集幹事および編集委員をもって構成し, 会誌の編集, 刊行に関する会務を行う。</p> <p>第17条 本会の経費は会費とその他の収入をもってあてる。</p> <p>第18条 本会の会計年度は4月1日から翌年3月31日までとする。</p> <p>第19条 本会の活動趣旨に賛同した個人または団体からの寄付を, 会長は運営委員会の議を経て受けることができる。</p> <p>第20条 会則の変更は総会の決議による。</p>

- A 1 2 桃下真理子・豊原源太郎 (広島大・院・理), アカマツ二次林の遷移段階と優占種との関係
- A 1 3 豊原源太郎・稲生和久 (広島大・院・理), アカマツ-アラカシ群集・タカノツメ亜群集について
- A 1 4 三木直子 (岡山大・院・自然科学)・坂本圭児 (岡山大・農)・西本孝 (岡山県自然保護センター)・吉川賢 (岡山大・農)・波田善夫 (岡山理大・総合情報), マツ枯れ被害を受けたマツ林分の構造と動態
- A 1 5 橋本佳延 (神戸大・院・総合人間)・武田義明 (神戸大・発達), コナラ林の常緑化と主要構成種の動態
- A 1 6 八木健爾 (神戸大・院・総合人間)・武田義明 (神戸大・発達)・小館誓治 (姫路工大・自然・環境研), 再度山永久植生保存区における植生遷移と埋土種子の動態
- A 1 7 黒木志穂子・持田幸良 (横国大・教育人間), ミズナラ二次林下に生育するヒメイチゲの分布特性
- A 1 8 山崎俊哉・丸井英幹・梅原徹 (環境設計 (株)), 隣接個体法による絶滅危惧種の生育環境把握
- A 1 9 渡邊定元 (立正大・地球環境), 人間活動(盗採)による岨山石灰岩植物相の劣化
- A 2 0 上條隆志 (筑波大・農林)・安井さち子 (東洋コウモリ研)・今関真由美 (野生生物管理)・佐藤洋司 (福島県北農林事務所), 栃木県における森林棲コウモリの分布と現存植生図による解析
- B 0 1 安島美穂 (東京女子大・文理・生物)・津田智 (岐阜大・流環研), 小清水原生花園における耕し処理による植生の変化
- B 0 2 迫田昌宏 (中外テクノス (株) 関西支社), 木津川河川堤防植生に及ぼす火入れの影響
- B 0 3 中本学 (大阪ガス (株))・下田路子・関岡裕明 (東和科学 (株))・森本幸裕 (大阪府立大), 埋土種子活用による植生管理
- B 0 4 齋賀紀子 (岡山理大・総合理学)・波田善夫 (岡山理大・生物地球システム), 岡山県鯉ヶ窪湿原における湿原植生と日照条件の関係
- B 0 5 田中徳久 (神奈川県立生命の星・地球博), 神奈川県におけるミズナラ群落の現況
- B 0 6 橘ヒサ子・松原光利 (北教大・旭川)・早川嘉彦 (北農試・草地)・山崎真美・富士田裕子 (北大・植物園), 北オホーツク海岸モケウニ沼湿原における水生植物群落の分布と水質との関係について
- B 0 7 池田浩明・横沢正幸・川島茂人 (農環研), 衛星データを用いた日光戦場ヶ原湿原の植生変動の解析
- B 0 8 横山政史・大野啓一 (横国大・環境研), 三浦半島小網代における塩生植生の生態
- B 0 9 中西弘樹 (長崎大・教育・生物), 西九州のハマボウ群落について
- B 1 0 星野義延・山口泰民・大山晶子 (東京農工大・農), 北部伊豆諸島における植物群落の多様性
- B 1 1 高比良響 (神戸大・院・総合人間)・浅見佳世 ((株) 里と水辺研究所)・武田義明 (神戸大・発達), 海岸風衝地におけるエノキ林の植物社会学的研究
- B 1 2 平塚勇司・奥田重俊 (横国大・環境研), エノキームクノキ林の種組成と人為による変化
- B 1 3 桑原佳子 ((社) 大分野生生物研究センター), 大分川河川敷のヤナギ林の動態について その2
- B 1 4 平中晴朗・吉川正人・福嶋司 (東京農工大・農), 北関東における扇状地河川の河畔林の成立過程
- B 1 5 星野義延・吉川正人 (東京農工大・農), 鬼怒川中流部における河跡池の成立と植物群落の構成
- B 1 6 竹原明秀・井上恭子 (岩手大・人文社会・生物), 岩手県雫石川の河辺植生
- B 1 7 吉川正人 (東京農工大・農)・沖津進 (千葉大・園芸)・石川幸男 (専修大・北海道短大), 沿海州の河川でのケシヨウヤナギの定着と成長
- B 1 8 矢ヶ崎朋樹 (国際生態学センター)・佐々木寧 (埼玉大・工), 「河川水辺の国勢調査」植生データの活用と課題
- B 1 9 大野啓一 (横国大・環境研), 日本のハンノキ林の群落体系
- B 2 0 田内裕之・宇都木玄 (森林総研・北海道)・右田千春 (筑波大・環境科学), 公表データを用いた森林の炭素固定量推定システム